



発行日：平成 27 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 28 回川部会WGを開催しました！

9月29日（火曜日）に第28回川部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、加茂川合流点段差改善のための魚道の設置案について意見交換を行いました。また、総合土砂管理検討委員会の検討状況について報告を受けました。



日 時：平成 27 年 9 月 29 日（火）13:30～15:30
会議場所：豊田市職員会館 2F 第1会議室
参加者：20名（事務局含む）

◆主な意見交換内容

1. 本日の話し合いでわかったこと、決まったこと



■加茂川合流点の段差改善について

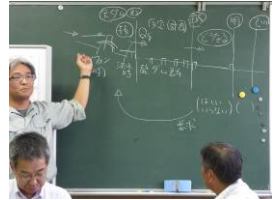
- 昨年度まで検討されていた木杭を用いた魚道は、既存施設の構造上、設置が難しいことから、今回新たに自然石を用いた棚田式魚道の設置が提案されました。
- 自然石を用いた棚田式魚道は、下記のような利点があります。
 - ① 自然石を用いることにより、自然にスリット部ができる。
 - ② 開口部を180度と広く設定できる。
- 下記に示すように、土砂堆積や遡上障害に留意した構造とする予定です。
 - ① プール水深を浅く（20cm程度）し、土砂が堆積しにくい構造とする。
 - ② 遡上障害低減のため、上流部の隔壁設置高を水門敷高より少し高い位置に設定する。
- 魚の行動習性等に詳しい専門家のご意見を伺いながら、できれば今年度中にWGメンバーと国土交通省の共同で設置したいと考えています。
- 施工日程が確定しましたら、MLにて周知いたします。ぜひご参加ください。

■総合土砂管理検討の概要報告について

- 豊橋河川事務所HPにて公開されている「矢作川水系総合土砂管理計画策定に向けて（技術的な課題と検討の進め方）平成27年5月」について、報告がありました。
- 報告では、総合土砂管理計画の策定までの手順や、現在河川環境WGで取り組まれている内容等が説明されました。これを受けて、計画策定までに解決されるべき課題、策定後に解決される課題等について意見交換を行いました。
- 今後も総合土砂管理検討の状況については、定期的に情報共有を行い、意見交換を実施していく予定です。

■今後のスケジュールについて

- 今後は、10月家下川モデル、11月地先モデル、12月本川モデルを予定しています。
- 10月家下川モデルは、10月13日（火）10:00～12:00（予定）とし、湛水防除事業（上郷排水機場）の設計状況について、関係団体と意見交換します。
- 11月地先モデルは、11月11日（水）午後（予定）とし、矢作古川分派施設、矢作古川頭首工等を見学します。
- 12月本川モデルは、12月18日（金）午後（予定）とし、白浜地区のモニタリング状況報告、豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の内容の紹介と意見交換を行います。



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶回答)

(1) 加茂川合流点の段差改善について

今回、新たに自然石を用いた棚田式魚道の設置が事務局より提案されました。この提案内容について、意見交換を行いました。

- ・今回の設置箇所は、ものすごく水が少ない。実際に魚が上る時に180度展開して薄く流すようにして、それでいいのか。ある程度真ん中を落として中央に絞ったほうがいいのか。(本守)
 - ▶ これまでの研究結果では、真ん中の池の敷高は若干高くして、わざと両側に水が流れるようにしている。流量が少ないときには、両側からのぼれるような形が良いという結果が出ている。(事務局)
- ・あまり大それた事を考えずにつくってみて、壊れたらまたつくればいいのかと思う。(内田)
 - ▶ 壊れたら直すと考えた方が良く思う。これが成功するとは限らない。(山本)
- ・石を固定するためにモルタルを下につめてしまうと、魚が身を隠しながらのぼることができない。出水期に石がとんでしまう事を承知で、魚が隠られる程度の石を置くのが良いのではないかと。(内田)
 - ▶ 石の使い方を、逆三角の石を配置し、コンクリートの間に流速の小さいところができるように据えるとよいと思うが、石が取れやすくなるので石の据え方には工夫が必要である。(本守)
- ・これは誰がつくるのか。(山本)
 - ▶ 出張所と希望される皆さんで、今年度中に施工することを考えている。施工時期にはお声をおかけしたい。(事務局)
 - ▶ 庄内川でもみんなでやった。どうやって積んだら良いかみんなで議論してからやらないといけない。(本守)
 - ▶ 施工時には、魚のことをよく知っている人が少なくとも一人はいないといけないと思う。(内田)
 - ▶ 専門家については、矢作川研究所に相談する。(事務局)

(2) 総合土砂管理検討の概要報告

事務局より、現在の総合土砂管理計画の検討状況が報告され、意見交換を行いました。

- ・技術的検討課題が多くリスト化されているが、技術的検討課題をクリアするステージと計画の策定の前後関係を教えてほしい。どの時点で計画とモニタリングと修正がグルグル回る状況になるのか。(鷺見)
 - ▶ 技術的検討課題が全て解決してから計画をつくるということではなく、並行で進めていく。環境影響の閾値の設定がある程度目処が立ったところで、管理計画を作り、その後随時見直しという形(順応的管理;アダプティブマネジメント)を考えている。(事務局)
- ・治水と利水という話があって、下流に土砂を流してほしいという話もある。こういった性質の土砂をどれくらい下流側から必要だと言っているのかについては、この中で検討しないのか。この検討の中で、どれ位の土砂量が必要で流すことができる、ということも数値的に突き詰めていくのか。(光岡)
 - ▶ 難しい課題だが、その課題を解決する可能性として土砂供給実験による環境影響の閾値設定を考えている。現状で数値的に突き詰めるまでの技術は無いので、実験をしながら対応を行っていくことを考えている。(事務局)
- ・課題としては、どれだけ流せるのかという話と、流すとどうなるのかが見えていない話と、どれだけ土砂が欲しいという話の3つの課題が相互に関係している。それを我々は検討委員会との間で課題と情報のやり取りをしないとイケないのではないかと。(鷺見)
- ・策定の段階では、利害関係者も含めた現場から、生き物なら生き物の立場でみたときの土砂はこれだけ欲しいというような話はどのように検討されるのか。(鷺見)
 - ▶ 環境影響の閾値検討等の内容について二次元シミュレーションを実施し、ご意見を伺うことを考えている。(事務局)
- ・自然科学的にはこういう土砂を供給したらこうなるという結果が出たとしても、それを受けて人間社会では何が望ましい姿なのかという意見は分かれる可能性がある。そういったところの議論をしなくてはイケない事は想定しておくべきだと思う。(内田)

(3) 振り返り

よかったと思うこと: 総合土砂管理の現状がよくわかった。/土砂に向けての最新の考え方を聞くことができ、大変興味深かった。当方の理解不足が解消できた(土砂検討委員会の立ち位置)。/矢作川のダム域だけでなく、矢作川流域全体の検討事項について理解することができた。/総合土砂管理の概要を確認できたこと。

よくなかったと思うこと: 総合土砂管理についてもっと話したかった。/総合土砂管理について関係者を含めた検討が必要である。

今後取り組んでいきたい活動など: 総合土砂管理の詳しいことを知る。/矢作古川頭首工。/土砂のシミュレーションをやりたい。/実験的な取り組みについては成果・結果を分かり次第是非教えてほしい。

質問など: 総合土砂管理計画検討では砂防や治山担当と協議しているか。/県の参加を促してほしい。

今後の流域圏懇談会の予定



■第29回川部会WG

日時:平成27年10月13日(火)10:00~12:00(予定)

内容:湛水防除事業(上郷排水機場)の設計状況についての説明、意見交換



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijinet.or.jp)までお送りください。

